

年 長 児 保 育 案

うみ組 男児16名 女児14名 計30名
保育者 西 あさ子 鳩宿 恵理香

1 幼児の実態

子どもたちは、「人」「もの」「自然」といった様々な環境とかかわりながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じて生活している。遊びを通して、自分の思いを伝えたり友だちの考えを聞いたりして、互いに協力して遊びを進めていくことよさや楽しさを味わっている。また、不思議に思ったことを図鑑で調べたり、絵本で感じたことを表現しようとしたり、自分が経験したことを絵本で伝えようとしたりと、遊びの中に絵本を取り入れようとする姿も見られる。

園庭では、ボール遊びや鉄棒、縄跳び、鬼ごっこなどを通して、友だちとルールを確かめたり、遊び方を教え合ったりしながら、友だちと遊び方を共有して遊びを進めていくことよさやおもしろさを味わっている。また、吐く息が白くなる楽しさなどこの時期ならではの自然のおもしろさ、素材によって気温の伝わり方が違う不思議さなどに興味を示し、疑問に思ったことを図鑑で調べる姿も見られる。

室内では、毛糸、牛乳パックや空き箱、ロールペーパー芯などのいろいろな素材を使って製作を楽しむ姿が見られ、自分なりのイメージをもち、色や形にこだわって工夫してつくっている。また、室内に置いてある人形やままごと道具を使い、自分たちで話し合いながら役柄を決めてごっこ遊びを展開したり、絵本で感じた世界を表現しようとしたり、年下の友だちと遊びを一緒に進めたりするなど、イメージした世界を友だちと共有しながら遊ぼうとする姿が見られる。

このように子どもたちは、友だちと協力したり、イメージを共有したりしながら遊びを進める楽しさを味わい、身近にある環境に興味をもちながら様々なものよさを見だし、よりよく生活をしていこうとしている。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、友だちと協力したり、イメージを共有したりして遊びを進める楽しさを味わい、身近にある環境に興味をもって、様々なものよさを見出し、遊びを進めている。

そこで、友だちと協力することよさや楽しさを味わい不思議に思ったことを知ろうする姿や、イメージしたことを表現しようとする姿を大切にしたい。

ボール遊びや鉄棒、縄跳び、鬼ごっこなどを通して、ルールを確かめ合ったり、遊び方を教え合ったりしながら、友だちと協力して遊びを進めることよさや面白さを感じることができないだろうか。また、これらの遊びを通して、風の冷たさや体が温まる心地よさや不思議さ、おもしろさなどの様々な体験が期待できる。互いに思いを伝え合うことで、イメージを共有し、疑問に思ったことや不思議に思ったことを自分たちで探求していく姿を大切にしたい。

ごっこ遊びでは、自分が今まで経験してきたことを友だちに伝えたり、絵本で感じた世界を表現しようとしたりして、イメージを共有しながら遊ぶ楽しさを味わうことができるのではないだろうか。そこで、様々な方法でイメージを伝え合い、共有しながら遊びを進める姿を見守り、環境を整えるなど、子どもたちの気付きを大切にしていきたい。

こうした遊びは、身近な環境に興味をもち、感じたことを豊かに表現しながら、友だちと協力して遊びを工夫する姿につながると考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- クラスの友だちと共通の目的をもって、思い切り遊ぶ。
- 自分たちで工夫し合い、友だちとのつながりを深めながらいろいろな遊びを楽しむ。

(2) 内容

- これまでの経験を生かし、クラスの友だちと協力して園生活を楽しむ。
- 自分なりの目的や見通しをもって、クラスの友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 友だちと励まし合ったり、認め合ったりしながら充実感を味わう。
- 年下の友だちに親しみの気持ちをもってかかわり、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊びを楽しむ。
- 氷や霜柱などの冬の自然に触れて、その不思議さに気付き、興味をもってかかわる。
- 冬の健康な生活の仕方が分かり、手洗い、うがいや衣服の調節など進んで行う。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちとごっこ遊びや鬼ごっこなど、共通の目的をもって、イメージを共有しながら思い切り遊ぶ。
- 互いに自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを聞いたりすることで工夫し合い、遊びが発展していく過程を楽しむ。

(2) 内容

- 互いにアイデアを出し合いながら友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 挑戦して友だちと励まし合ったり、認め合ったりしながら充実感を味わう。
- ごっこ遊びを通して年下の友だちに親しみの気持ちをもってかかわり、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊びを楽しむ。
- 冬の自然に触れて、その不思議さに気付き、興味をもってかかわる。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 一緒に遊んでいる友だちと考えを共有し、工夫して遊ぶ姿を見守り、協力することのよさを味わえるような援助を心掛ける。
- 年下の友だちに優しく接する姿を見守り、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊ぶことへの充実感を味わえるような言葉掛けを行う。
- 降園活動では、じっくりと友だちの話を聞くことができるような雰囲気づくりを心掛ける。

イ ものとのかかわり

- 子どもたちが、イメージするものを自分たちで作り出していけるような材料を十分に準備しておく。
- 道具を使った遊びを通して、互いにルールを理解して遊ぶ楽しさが味わえるように、みんなでルールを話し合いながら遊びを進めるようにする。
- 初めての遊びにも挑戦しようとする姿を見守りながら必要に応じて補助をしたり、言葉を掛けたりしていく。

ウ 自然とのかかわり

- この時期ならではの水や風の冷たさや吐く息が白くなる不思議さに、一緒に驚いたり、遊びに取り入れたりしながら、自然の不思議さを感じ、疑問を調べていくような援助をする。
- 花や野菜の成長に気付き、開花や収穫を楽しみにできるような言葉掛けを行い、自然への関心を高めていく。